

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 19日

1. 職名・氏名 教授・濱口昌巳

2. 学位 学位 農学博士、専門分野 海洋生物生産、授与機関 愛媛大学、授与年 1989

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 フィールド実習（2）、生物学Ⅱ（2）
② 内容・ねらい フィールド実習では先端増養殖科学科の一年生に発表用資料の作成方法や発表の仕方、フランスの講師による海外後の情報交換や共同研究の内容を講義した。生物学Ⅱでは、生物生態に関する部分を担当し、教科書の内容の説明に加え、水産業の現場での事例を加えてわかりやすく説明した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 フィールド実習では、本年度来日していたフランス IFREMER の研究者の講演を Zoom 録画して教材に利用するなどより実践的な内容となるように工夫した。 それ以外では5の項目に示す佐賀県、広島市、民間企業等への技術指導や若狭高校ダイビング部や小浜の NPO 法人うみから、とのアマモ場調査等のフィールドワークも実施した。 一方、美方高校で大学開放講座、三重大学では水圏環境生物学の集中講義を行うとともに、日本水産資源保護協会の巡回教室での講師を務めた。
(2)その他の教育活動
5に示す若狭高校のイワガキ増殖試験や一年生に対する社会見学等の際に、指導・助言等を行った。先端増養殖科学科特別セミナーの企画・運営（カキの新ブランドの創出戦略）

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 著書 ブルーカーボン-浅海における CO2 隔離・貯留とその活用 - 第二版 第 4 章担当 (pp.93-122)、2022 年 8 月、地人書館 <p style="text-align: right;">【1 本】</p>
② 学術論文 (査読あり) 1. Factor driving the settlement of Pacific oyster <i>Crassostrea gigas</i> larvae in Hiroshima Bay, Japa., Matsubara, T., Yamaguchi, M., Abe, K., Onitsuka, G., Abo, K., Okamura, T., Sato, T., Mizuno, K-I., Lagarde, F., <u>Hamaguchi, M.</u> , Aquaculture 563, 738911. DOI: <a href="http://doi.org/10.1016/j.aquaculture.2022.738911">http://doi.org/10.1016/j.aquaculture.2022.738911</a> , 2022. Oct. 2. Export and dispersal of coastal macrophyte-derived organic matter to deep offshore sediment around the Tokara and Yaeyama islands, southweat Japan: Evaluation using quantitative DNA probing techniques. Miyajima, T., <u>Hamaguchi, M.</u> , Nakamura, T., Katayama, H., Hori, M. Bulletin of the Geological Survey of Japan, vol. 73 (5/6), 313-321, 2022, Sep. 3. Development of sandwich enzyme-linked immunosorbent assays for chub mackerel <i>Scomber japonicus</i> gonadotropins and regulation of their secretion in female reproduction. Nyuji, M., <u>Hamaguchi, M.</u> , Shimizu, A., Isu, S., Yoneda, M., Matsuyama, M., General and Comparative Endocrinology, 328, 114103 DOI* <a href="https://doi.org/10.1016/j-yggen.2022.114103">https://doi.org/10.1016/j-yggen.2022.114103</a> , 2022. Aug. 4. Failure of bivalve foundation species recruitment related to trophic changes during an extreme heat wave event. Correia-Martins, A., Tremblay, R., Bec, B., Roques, C., Atteia, A., Gobet, A., Richard, M., <u>Hamaguchi, M.</u> , Miyajima, T., Hori, M., Miron, G., Pouvreau, S., Lagarde, F., Marine Ecology Progressive Series, 692, 69-82. DOI: <a href="https://doi.org/10.3354/meps14060">https://doi.org/10.3354/meps14060</a> , 2022. Jul. <p style="text-align: right;">【4 本】</p>
③ その他論文 (査読なし) 1. 三浦半島江奈湾から採取されたモバケヤリムシ (環形動物門多毛類ケヤリムシ科). 西栄二郎・阿部博和・多留聖典・横岡博之・横山耕作・ <u>浜口昌巳</u> , 南紀生物、64 (2)、173-175、2022 Dec. 2. 大分県国東半島黒津崎の潮間帯から採取されたウバラカンムリゴカイ (環形動物門多毛類カンムリゴカイ科). 西栄二郎・阿部博和・巻口範人・青木美鈴・上野綾子・北西滋・ <u>浜口昌巳</u> , 南紀生物、64 (2)、140-142、2022 Dec. <p style="text-align: right;">【2 本】</p>
④ 学会発表等 1. 漁業調査船しらふじ丸を用いたマガキ浮遊幼生鉛直分布調査、第 52 回南海・瀬戸内海海洋調査技術連絡会 (2022/11)、鬼塚剛・阿保勝之・松原賢・岡村知海・ <u>浜口昌巳</u> 2. 広島湾における海水中の防汚物質 DCOIT のモニタリング、令和 5 年度日本水産学会春季大会 (2023/3 予定)、河野久美子・隠塚俊満・ <u>浜口昌巳</u> 3. マガキ浮遊幼生の鉛直分布と環境因子、令和 5 年度日本水産学会春季大会 (2023/3 予定)、鬼塚剛・ <u>浜口昌巳</u> ・阿保勝之・紫加田知幸・松原賢・隠塚俊満・水野健一郎 4. 広島湾におけるマガキ浮遊幼生動態シミュレーション、令和 5 年度日本水産学会春季大会 (2023/3 予定)、鬼塚剛・阿保勝之・池田俊一郎・水野健一郎・ <u>浜口昌巳</u> <p style="text-align: right;">【4 件】</p>
⑤ その他の公表実績 テレビ朝日「大洗海岸などのチョウセンハマグリの密漁に関するコメント」、読売新聞記事「小浜湾のカキ養殖に関する試みを解説」 <p style="text-align: right;">【2 本】</p>

<p>(2) 科研費等の競争的資金獲得実績</p> <p>【学外】</p> <p>1. 令和 04 年度（公財）浦上食品・食文化振興財団研究助成「食中毒リスク軽減に寄与するアニサキス検出法の開発」分担者（申請者：瀧澤 文雄）</p> <p>2. 令和 4 年度福井県委託研究「ふくいの磯根資源持続的利用技術開発」分担者</p> <p>3. 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所所内プロジェクト研究「アサリ産地判別技術の高度化並びに中国産アサリとの交雑判定のための技術開発」分担者</p> <p>4. 水産庁事業漁場環境改善推進事業「栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術の開発」のうち「栄養塩の水産資源に及ぼす影響の調査」後継課題の次年度から実施課題の一部分担 2 件</p> <p>5. 日本財団の海洋酸性化プロジェクト「カキ類浮遊幼生に対する海洋酸性化の影響評価並びに小浜湾の環境モニタリング（仮題）」獲得（課題代表者予定）</p> <p>（科学研究費補助金 基盤研究（B）「浅海域植生帯堆積物における有機炭素長期貯留評価と難分解化機構の解明」研究分担者本年度より研究開始）</p> <p>【学内】</p> <p>学長裁量経費二枚貝のスマート養殖研究 「各地域で完結する新規カキ養殖技術の開発」 課題分担者</p>
<p>(3) 特許等取得</p> <p>なし</p>
<p>(4) 学会活動等</p> <p>中国四国支部幹事（日本水産学会）</p>

## 5. 地域・社会貢献活動

<p>①-1 委員就任（環境省）令和 4 年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業（磯・干潟調査）の干潟分科会、本事業のうち干潟に関する調査の評価及び実施、2022/4/10～現在</p> <p>①-2 委員就任（和歌山県）貝毒監視調査事業に係る評価を行う 2022/8/10</p> <p>①-3 委員就任（広島市）令和 4 年度太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会、広島県太田川のアユやシジミ漁業の復興に向けた施策を検討する、2023/1～現在</p> <p>①-4 外部専門家就任（長崎・福岡、佐賀・熊本 4 県）水産庁有明海漁業振興技術開発事業にかかる魚種別検討会二枚貝分科会での外部専門家として本年度の調査・研究結果の助言・指導、2023/2/20</p> <p>①-5 国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所客員研究員 2022/5～現在</p> <p>②-1 福井県委託研究ふくいの磯根資源持続的利用技術開発、調査および試料分析、2022/6～現在</p> <p>②-2 国立研究開発法人水産研究教育機構水産技術研究所委託研究アサリ産地判別技術の高度化並びに中国産アサリとの交雑判定のための技術開発」、調査および試料の分析、2022/7～現在</p> <p>②-3 水産庁事業漁場環境改善推進事業「栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術の開発」のうち「被害軽減着実の開発」、調査および報告書とりまとめ、2022/4～現在</p> <p>②-4 日本財団「海洋酸性化プロジェクト」、文献調査、2022/8～現在</p> <p>②-5. 科学研究費補助金 基盤研究（B）「浅海域植生帯堆積物における有機炭素長期貯留評価と</p>
---

<p>難分解化機構の解明」、調査および試料分析、ファージミドライブラリの作成、2022/4～現在</p> <p>③-1.NPO 法人「うみから」と共同で水産多面的事業に係るアマモ場調査、2022/6/9、2022/6/17、2022/7/28、2022/11/10</p> <p>④ なし</p> <p>⑤-1.三重大学集中講義「水圏環境生物学」2022/9/20-22</p> <p>⑤-2.島根大学生態環境工学分野の調査協力、2022/4～現在</p> <p>⑥-1.先端増養殖科学科のわくわく先取り講座 初夏の部 「第2回：カキと海草（アマモ）で地球温暖化に挑戦」、WEB、2022/6/15</p> <p>⑥-2.ランチタイムセミナー「ブルーカーボン研究：地球温暖化防止のための海からの挑戦」、WEB、2022/10/14</p> <p>⑥-3.大学開放講座：「大学で学ぶということ!」、美方高校、2022/11/5</p> <p>⑥-4.日本水産資源保護協会巡回教室「マナモコの資源管理について」、島根県浜田市。2022/11/30</p> <p>⑥-5.日本技術者協会公開セミナー「ブルーカーボン研究の現状」、東京、2023/3/11 予定</p> <p>⑥-6 若狭高校イワガキ養殖手法指導、2022/6/1、2022/6/15</p> <p>⑥-7.若狭高校ダイビング部によるアマモ場調査技術研修、堅海臨海研究センター、2022/8/4</p> <p>⑥-8 カキ養殖新技術導入プロジェクト会議（小浜市主催）、小浜市漁業協同組合、2022/4/28、2022/5/31、2022/11/21</p> <p>⑦-1 北陸技術交流テクノフェアふくい IT フォーラム（先端増養殖科学科のカキ養殖研究を紹介）、福井県産業振興会館、2022/10/</p> <p>⑦-2 ふくい農林水産 まるごとフェスタ（先端増養殖科学科のカキ養殖研究を紹介）、福井県産業振興会館、2022/11/13</p> <p>⑦-3 カキ幼生同定技術研修、水産技術研究所、2022/10/4</p> <p>⑦-4 カキ幼生同定技術研修、佐賀県有明海水産振興センター、2022/12/5-6</p> <p>⑦-5.養殖イワガキ計測作業、矢代、阿納、高浜等、2022/6/27、2022/7/1</p> <p>⑦-6 藻場調査技術指導、志積、2022/9/30</p>
--

## 6. 大学運営への参画

(1)補職
なし
(2)委員会・チーム活動
福井県立大学編集委員会委員（R4.4～現在に至る）
(3)学内行事への参加
ランチタイムセミナー「」、2022/12/
(4)その他、自発的活動など
地元漁業者の藻場再生のための現地調査、業業者とともに潜水調査を行い、藻場の状況を調べる、2022/9/